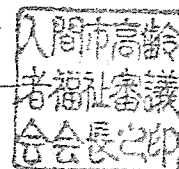


平成 28 年 2 月 9 日

入間市長 田 中 龍 夫 様

入間市高齢者福祉審議会

会 長 春 名 恭



市独自サービス事業の見直しについて（答申）

平成 27 年 6 月 3 日付け入高発第 186 号で諮問のあった「市独自サービス事業の見直し」について、当審議会では 7 回の会議を開催し、慎重に検討を重ねた結果、次のとおり取りまとめましたので、ここに答申いたします。

1 答申にあたって

市におかれましては、長年にわたり、「福祉の後退はなし」の理念のもと、高齢者福祉施策においてもきめ細かな施策を実施してこられました。少子高齢化の進展、社会経済情勢の変化等により、これからも税収の伸びが望めない中、更なる扶助費の増大が見込まれています。

このことから、人口減少時代において、将来にわたり現状のまま市独自サービス事業を継続することは困難であると思われ、また、世代間の負担と給付のバランスの格差が生じることも課題となっています。

一方、介護が必要になっても住み慣れた自宅で生活を継続したい、と希望される方は多くおります。在宅においても、衛生的で安心・安全に生活できるよう支援することは必要であると考えられます。

以上のことを踏まえたうえで、事業の効果や利用状況、他市の状況を総合的に判断し、審議会として答申することとしました。

2 答申事項

(1) 入間市在宅高齢者等おむつ事業

見直し内容 生活保護受給者及び本市の介護保険被保険者以外を支給対象外とするよう改正する。



理 由 常時失禁の方の経済的負担及び介護者負担は相当なものであり、近隣市においても実施していることから継続とするが、支給対象者について、生活保護受給者は生活保護制度の一時扶助で対応可能なため対象者から除く。また、近年、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が増え、住所地特例の居住者が増えていることから、近隣市の状況も勘案し、入間市の介護保険被保険者以外を対象外とする。

その他要望 支給したおむつが大量に溜められているケースが見受けられることから、支給量と利用量が適正であるかをケアプラン作成者である介護支援専門員がチェックする仕組みを作ること求めたい。

(2) 入間市要援護高齢者等タクシー利用料金助成事業

見直し内容 早期に全面改正することを前提として、今回は継続とする。

理 由 県内で本市だけが実施している事業であり、廃止したいところであるが、施設や病院の往復のための事業であることから、真に必要な方にサービスが行き届くような新規事業を早期に整備し、運用を開始すること。運用が開始されるまでは事業継続とすること。

(3) 入間市ねたきり高齢者等介護手当支給事業

見直し内容 介護者負担の大きいことを考慮し、継続とする。

理 由 今後、ねたきり高齢者は増加し、支給額も増加していくことが懸念されるが、介護者負担の大きいことを考慮し、現時点では必要な事業であると判断する。

(4) 入間市ねたきり高齢者等訪問理容・美容サービス事業

見直し内容 衛生的な生活を支える事業であることから、継続とする。

理 由 高齢者の衛生的な生活を支える事業として必要である。また、専門技能であり、ボランティア等では担えない事業でもあるので必要と判断する。

(5) 入間市高齢者等支援事業利用者負担軽減事業

見直し内容 対象者の要件に本市の介護保険被保険者であることを加える。また、対象事業から、在宅高齢者等おむつ事業と福祉用具購入費用を外すよう改正する。

理 由 近年、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が増え、住所地特例の居住者が増えており、近隣市においても対象外としていることから、入間市の介護保険被保険者であることを要件に加える。

在宅高齢者等おむつ事業は市独自サービス事業で9割を補助しており、1割の自己負担分に対する負担軽減であり、また福祉用具購入費用は一時的な費用であるため、不要と判断する。

その他要望 申請の方法や手続きについては、利用者が利用しやすいように簡素化を図ってほしい。

(6) 入間市ねたきり高齢者等寝具乾燥車派遣事業

見直し内容 在宅での衛生的生活環境を支える事業であることから、継続とする。

理 由 ねたきり高齢者の衛生的生活環境を確保するために必要な事業と判断する。寝たきりになっても住み慣れた自宅での生活を継続できるようにするためにも必要である。

(7) 入間市徘徊高齢者等位置情報サービス事業

見直し内容 在宅での認知症高齢者を支える事業であることから、継続とする。

理 由 高齢化に伴い認知症患者が増加する中、認知症高齢者の生活を支え、安全を図る事業として必要と判断する。

その他要望 認知症高齢者が増加しており、全国的に行方不明者の増加が問題となっている。事業の周知に努めるとともに、多様な商品が開発されているので、サービスの拡充を求めたい。

(8) 入間市成年後見制度利用支援事業

見直し内容 認知症高齢者を支える事業であることから、継続とする。

理 由 認知症患者の増加により利用者は増加することが見込まれる。

認知症高齢者を支える事業として必要と判断する。

3 おわりに

人口減少・超高齢社会における高齢者福祉施策のあるべき姿を検討するにあたり、世代間の負担と給付のバランスを考慮し、持続可能な施策により高齢者福祉の増進を図っていくことが必要であると考えました。

潜在的に、人の役に立ちたい、地域のために何かしたいと考えている高齢者は決して少なくありません。元気な高齢者が支援を要する高齢者を支える互助の仕組みを構築し、担い手を増やしていただきたい。さらに担い手同士のネットワークづくりを進め、地域で連携しながら広めていっていただきたい。

また、市民が元気で生き生きとした高齢期を過ごすために、健康寿命を伸ばすことが大切です。各地域において日常的に体操などの運動をするグループが増える取組を進めていただきたい。そうした取組により、健康増進に加え、新たな地域コミュニティが生まれ、人と人の交流が促進され、生き生きとしたまちづくりが期待できます。ぜひ、庁内横断的な組織体制を基盤とした、全市を上げての活動として積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。